



2015-16 年度 R I のテーマ「世界へのプレゼントになろう」

R I 会長 K. R. ラビンドラン (Be a gift to the world)

八戸南ロータリークラブ会報

例会日：毎週木曜日 12:30 例会場：八戸パークホテル

●ガバナー 鈴木 唯司 ● 会長 伊藤 斉 ● 幹事 吉田 立盛 ● コミュニケーション委員長 三浦 晃

ホームページ：<http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/> Email：hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

Facebook ページ：<https://www.facebook.com/hachinoheminamirc/>

Facebook ページに「いいね!」をお願いします。

RI 第 2830 地区ホームページ：<http://www.rotary-aomori.org/2015/>

第 1962 回 例会 記録

《職業奉仕委員会担当例会》

2016 年 1 月 21 日 (木)

点鐘 12:30

レポート No. 1394



平光 S A A

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか



《会長要件》伊藤会長



先週の例会でもお話ししましたが 1 月は職業奉仕の月間です。先週の土曜日、三八五流通グループ様の新年事業報告会にクラブを代表して出席してまいりました。八戸市内はもとより多方面から 340 名ほどの職業人が一堂に会しての盛大な会で、ロータリークラブの会長をしていると普段接する事のない方々ともお会いする機会が増えて勉強になります。泉山会長さんがお話された今年の方針の中に「信用」というものがありました。「信用」こそすべての職業に通ずるものと思います。2 月に行う我がクラブの「よろず相談」も「信用」の上に成り立っています。今日は職業奉仕委員会の担当例会で「よろず相談」のお話もあるかと思えます。鈴木さんよろしくお祈り致します。

昨年、南浦項クラブ 33 周年で訪韓した時に取り交わした再調印証が届きました。当日のプログラムと一緒に事務局に置きますのでご覧になってください。RI からのメールでスポンサーバッジを今年の 3 月で廃止すると言う案内がありました。2 年ほど前から新会員を紹介して下さった方に RI からスポンサーバッジが送られてきていましたが、2 月末の申請で打ち切る事になったそうです。バッジの為に新会員を勧誘する訳ではありませんが、クラブ活性化の為に改めて新会員の御紹介をお願いしたいと思います。

《幹事報告》吉田立盛幹事

- ・ 蕪嶋神社よりお礼状が届いています。
- ・ 例会変更のお知らせです、八戸北 RC 2 月 23 日 (火) 時間場所変更です。
- ・ 国際ロータリーからロータリー国際囲碁大会の案内が届いています。今回はソウルでの国際大会にあわせて開催されます。
- ・ ハイライト米山が届いています。
- ・ よろず相談のチラシとポスターが出来ましたので



《出席報告》大橋委員長



正会員数 47 名。本日の出席は免除会員 6 名を含む 27 名出席率 66% です。前々回の例会は蕪嶋神社での新年互礼例会でした。お祓いをしてもらい清い心がより清くなったと思いますので、一年間頑張りましょう。

お持ち帰りになり宣伝して下さい。

・ 退会のお知らせです、小野澤会員から退会届が送られて先週の理事会で受理しました。

《ニコニコボックス》吉田賢治委員長

伊藤会長：職業奉仕委員会担当例会、よろしくお祈り致します。

鈴木会員：本日、職業奉仕委員会担当です。よろしくお祈り致します。

平光会員：鈴木委員長、よろしくお祈り致します。

清川会員：職業奉仕委員会担当例会、鈴木委員長よろしくお祈り致します。



《職業奉仕委員会》鈴木委員長



先程、会長、幹事からもお話がありました。来月 2 月 13 日、恒例のよろず相談会を開催致します。色々準備が進んでおりまして、ポスターが出来てきましたのでお持ち帰りになり貼ってください。八戸市の広報にもちゃんと掲載されているのを確認しました。昨年も広報を見て来たと言う方も結構いらっしやいまして、以外と言うか結構見ている方がいらっしやるなど感じております。

今日は職業奉仕委員会担当例会と言う事で何をお話しようかと考えましたが、私自身が思っていると言いますか、最初の頃にそういうふうにご教示された職業奉仕という言葉の意味と言うようなものについてお話ししたいと思います。大分以前にご教示されたこ

となので、今は解釈が違っていることがあるかもしれませんが、私が思う事と言う事でお話ししたいと思しますのでご容赦ください。

「職業奉仕」と言う言葉は英語で「VOCATIONAL SERVICE」で、奉仕とかサービスと言うのを日本語で考えると、職業と言うものにあまりマッチしない感じがします。我々が言葉から受ける感覚と言うものは、奉仕と言うと例えば「ご奉仕価格」とか、サービスと言えば「今月はサービスしておきますよ」と言う感じで、どちらかと言うと「おまけ」のような感覚が強いものですが、それを職業に結び付ければ「大安売り」とかが関係あるのかもしれませんが、そうでないと中々結びつかなくて、職業で奉仕すると言うのはどういうことなのかと言う事になります。私がロータリーに入れて頂いて間もないころの研修会だったと思いますが、その時「職業奉仕」の分科会に出ました。その時「職業奉仕」の例と言うのをいくつか挙げられてお話がありました。その中の一つに『ロールスロイスの車がアフリカの砂漠で故障してしまった。その時ロールスロイスがイギリスから修理の部品を飛行機で運んで修理をして、その代金を請求しなかった』これは「職業奉仕」ではない。きちんと仕事をしたのであればその仕事に対する対価をいただくべきであると言う考え方だろうと思います。別な解釈で、例えば「砂漠で故障した時にもちゃんと修理します」と言うような保証規定が最初に有ったのであれば、それは職業の仕事の範囲内であろうし、そこまで考えるとキリがありませんが、そういうようにきちんと仕事をするとするのが大前提で、報酬と言うものは自然と付いてくるものと言う考え方「奉仕」と言う言葉の訳がどうも我々にはピンとこない所があるので、言葉の概念が全く違うのだろうと言う気がしています。その時出た別のお話には「社会奉仕」との違いは何だろうかと言うものがありました。タクシーの運転手さんがお客さんを乗せて、その代金をもらうと言うのは普通の事であり、当然の事でそれは「職業奉仕」だ、ある時タクシーの運転手さんが道端でしゃがみこんでいるおばあさんに『どうしたのですか』と聞いたところ『くたびれて歩けないがお金がないからタクシーには乗れない』と言われ、大変気の毒に思い、サービスでタクシーに乗せて送り届けたと言う話で、これは「職業奉仕」ではなく「社会奉仕」だと言うような比較をしたお話がありました。表面的な形から言えば「職業奉仕」と「社会奉仕」との違いを表しているお話ですが、実はオチがありまして、その時会場にいた多分タクシー会社の社長さんだと思うのですが『タクシーがお金をもらわずにお客様を乗せるのは法律違反だ』という発言があり、皆で苦笑いをした記憶があります。今は法律が変わっているかどうかわかりませんが、そんなことがありました。我々の仕事でもある事ですが、きちんと仕事をしないでお金をいただくのはまずい事で、昨年、全国展開をしている薬局さんであった事ですが、我々には「薬歴」というお医者さんのカルテのようなものがあり、それをきちんとつける事により調剤の報酬をいただけるのですが、それを書かずに保険請求をした事例がありました。その後どうなったかはわかりませんが、多分厳しい

査定があった事と思います。これは、きちんと仕事をしていなかったのがうまくなかったのであり、ちゃんと仕事をしていれば報酬を請求しても当然あたりまえの事であり、きちんと仕事をしていればそれに伴った対価が入ってくるのだと言う考え方だろうと思います。もう一つの例を挙げれば、これも有名な話ですが『アメリカでロータリーの例会の時に、ある人が弁護士さんに相談をした。それに対して弁護士さんが答えてくれたが、後日相談料の請求書が送られてきた』職業と言うものはそういうものと言うお話なのでしょうが、私はちょっと疑問がありまして、暗黙でもいいし、もちろん口頭でもいいのですが『私に相談して私が答えたなら相談料を請求しますよ』と言うような取引の契約がなされていれば、または暗黙でもこの人に相談すれば請求されるという事がわかっていれば請求書が送られてきてもいいとは思いますが、それがなされていなければ契約が成立していないと思うので、本当の「職業奉仕」の意味で違うような気がしています。しかしながらそのような事例も時々出てきます。なかなかその辺が哲学的と言うか、わかったようでわからないのが「職業奉仕」の委員会かなと考えています。

毎月最初に「四つのテスト」の唱和をして頂くのですが、「四つのテスト」と言うのをパッと見た感じでは、すごく倫理的で道徳的で素晴らしいと思うのですが、なぜあれが職業奉仕委員会の担当なのかと言う事です。実は「四つのテスト」が出来たのは世界恐慌の時、昭和のはじめです。その時にシカゴのロータリークラブの会員であったハーバート・テラーと言う人が作りだしたものです。「四つのテスト」についてなんかいい話がないかとネットで探したところ「ロータリー源流の会」というサイトに行き当たり、そこに「四つのテスト新しい解釈」と言うものを見つけました。どういう会かなと思い、ロータリーの哲学的な事を研究する会なんだろうと思いながら役員名簿を見たところ、当クラブの黒田元 RI 理事のお名前があり安心して見られるサイトだと思い拝借してきました。ハーバート・テラーと言う人がなぜ「四つのテスト」を考えたとすると、倒産しそうな会社の経営を引き受け、これを立て直すにはどうしたら良いか色々と考えた時に、経営者も従業員も一つの方向に向いて、正しい考え方で仕事をしていくことが大前提であり、その事が会社の再建に繋がるだろうと言う事で、皆が簡単に理解できる指針になるような言葉を考えて出来たのが「四つのテスト」だったと言う事です。例会場に掲げている「四つのテスト」を見ると、日本語訳が美しすぎます。ものすごくよく出来ていて「職業奉仕」以外にもいろんなところで使える「四つのテスト」になっています。本来はもっと厳しいところから生まれた言葉のようですが、その四つの解釈が違うのではないかと、本来はこういう解釈ではないかと言うものが載っていましたが、それをご紹介したいと思います。まず「四つのテスト」と有りますが四つなので複数形ですから S がついて「TESTS」と複数形に



なるのですが、原文は「TEST」で単数形になっています。何故かと言うと1から4までひとつひとつが別なものではなく四つそろって一つの事なのです。1番の「真実か どうか」ですが、「真実か どうか」確かにすごく良い事ですが「うそも方便」というか、例えばお医者さん、我々でもたまにありますが患者さんに病気の事を詳しく言って良いものかどうか「告知」してもいいのかどうかと言う事なのですが、人によってはあまり詳しく教えない方が良くはないかと「うそ」の事を言う事があります。ではそれが1番に反するかと言う事です。そうではないことは皆さんもお判りいただけると思いますが「真実」と言う訳が引っかかるのだと思います。「真実か どうか」と言うのは自分の仕事内容、元々が商売から始まっているので「取引」とか「販売」が「事実」に基づいた仕事をしているのかと言う事だと思います。先日、廃棄すると言って廃棄せずに横流しをした事件がありましたが、これは完全に事実ではありません。そういう事をしてはいけないという所から始まった言葉で「真実か どうか」と言うよりは「事実か どうか」の方がふさわしいのではないかとネットでは解釈していました。2番目の「みんなに公平か」これも別に商売でなくても色んなことで使える言葉ですが、原文は「Is it FAIR to all concerned?」です。all concerned はすべての関係者というか、関わりのある人に対して Is it FAIR ですから、公平かと言う事です。商売で考えますから取引相手です。取引をする色んな相手がいると思いますが、その人たちみんなに「公平」なんだろうか、すべての取引先に対して「公平な取引」をしているかと言うのが元の言葉ではないか、それを一般的に広めた解釈になっているのだと思います。「みんなに公平か」の、みんなにの all だけが訳されていて、all concerned、取引先とか関係者が省略されていると言う解説でした。3番目の「好意と友情を深めるか」、これも友達とかロータリーのお互いの関係で非常に良い言葉ですが、実は商売上の事ではないか、GOODWILL は、好意とか善意を表す言葉で、商売上だと「信用」とか「評判」を表し、店の暖簾とか取引先を表しているのだと言う事で、お互いの商売上の取引が会社の信用を高めると同時に、より良い人間関係を作り上げる。

その結果取引先を増やすことが出来る、そういう意味で「信用を高めて取引先を増やすか」と言う意味を含めて「好意と友情を深めるか」と言う言葉が出来たのだと言う事です。最後の「みんなのためになるかどうか」は「Will it be BENEFICIAL to all concerned?」で BENEFICIAL は日本語にストレートに訳すと「儲け」とか「利益」と言う意味になるとと思いますが、売る側だけがもうかって買う側が損をする、大幅にダンピングしたので売る側は損をしたけど買う人はもうかったとか、それではだめなんだと、お互いと言うか取引に関係するすべての人が、お互いに正当な利益、報酬をいただいて、仕事を受けた人も買物をした人も満足すると言う意味で「みんなのためになるか どうか」というように元はそこから始まったのではないかというような「四つのテスト」の考え方です。「源流の会」のサイトでは「すべての取引に利益をもたらすか」と訳するのが原文に近いだろうと言う解釈でした。

昨年5月の地区研修・協議会の時に「職業奉仕」の分科会で、最近入会された方から質問があり、2番目と4番目の違いが分からないと言う話でした。「みんなに公平か」「みんなのためになるか どうか」日本語で考えるともしかしたら同じような言葉に聞こえます。解釈の仕方なのですが、先ほど言ったように利益の問題と、相手によって差を付けないと言うような違いはあるのでしょうか、私は「みんなに」という所の強調の仕方がそれぞれ違うのではないかと言う気がします。「みんなに公平か」はすべての人、つまり「みんなに」が強調されているような気がしていて、「みんなのためになるか どうか」はどちらかと言うと「ためになる」方が強調されている気がします。おんなじ「みんなに」ですが、「お互いに」「それぞれの利益になる」と言う方が強調されていて若干違うのではないかと考えています。なかなかよく解りませんが、先ほど言いましたように私の思う所なので『今の国際ロータリーの職業奉仕の考え方はちょっと違っているよ』と言うのがあれば教えていただければと思います。余計に解りにくくなったかもしれませんが「職業奉仕」と言うのは、英語と日本語の違いもあり解りにくい委員会になっているのかなと思っています。